

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2015年5月13日号 NO.514

写真提供：大崎市

Subject：NHK プロフェッショナル 今週の再放送を見逃すな！

NHK総合の番組「プロフェッショナル」。久しぶりに心揺さぶられる回に出会いました。5月11日に放送終了しているのですが、皆さんぜひ再放送を見ていただきたい！

【時代にあらがう信念の金融 ファンドマネージャー・新井和宏】
再放送 5月16日（金曜深夜）午前1時10分～1時58分

以下、NHKのホームページより抜粋です。

ファンドマネージャーという仕事の使命は、投資家から託されたお金を株式投資などを通じて増やすこと。7年前、それまで働いていた世界最高峰の資産運用会社を辞め、仲間とともに金融ベンチャーを立ち上げ、現在9千人の顧客から140億円を託されている。

日々の売り買いのみならず、もうひとつ大事な仕事、それは投資先の企業をいかに選定するのかということ。まず社会的に意義があるかなど、その事業に心から共感しないと、投資先にはしないことに決めている。その上でこだわるのが、候補先として挙げた会社の幹部を外しての「社員面談」だ。出来るだけ若手の社員と話をすることを心がける。見定めようとするのは、「自分の会社が好きかどうか」。どの会社もよいときばかりは続かない。苦境に陥ったとき、踏ん張れるかどうか。それを左右するのは、社員の仕事に対する気持ちだと考えている。そして、それは投資をする上で最大のリスクヘッジになる。「志ある会社」を探し求め全国を駆け回っている。

また、株式投資を通じて得た利益を元手に、これまで4社に対して破格の低金利で資金を貸し出した。たとえば、環境にとことん配慮しながら高品質のタオルを目指す愛媛のタオルメーカーや、衰退する地域の林業を再生し地域の活性化を目指すベンチャー企業。どちらの企業も、ほかの金融機関から借入れが出来ず運転資金が底をつきかけたとき、新井の会社で資金を貸し出し窮地を救った。

みずから立ち上げた金融ベンチャーで本当にやりたかったこと。それは、まだ小さくとも社会に貢献しようという志を貫く企業を思い切って応援すること。
戦後、銀行がリスクを冒して小さな企業に融資し、育てあげた姿を思い描いている。

バブル崩壊以降は「貸し渋り」「貸しはがし」が起こった。しかし、新井は「あるべき金融」の姿を追い求め、日々地道な挑戦を続けている。

ただお金を増やすことが目的ではない。信念と志を貫き、世の中のためになる会社を育てることを目的にお金を扱っている。そんな姿勢と志に感銘を受けるのです。